

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属小・教諭

氏 名 湯澤 卓

研究期間 平成28年度

研究費 227,000 円

研究プロジェクトの名称	子どもの「そうぞう性」を育む音楽づくりの研究
研究プロジェクトの概要	1 研究の目的 デジタル音源を活用した音楽づくりを通して、自分の音楽をつくる喜びを味わったり、友だちのつくる音楽の面白さに気付いたりしながら、「そうぞう性」を高める。 2 研究の特色 本研究では、子どもがデジタル音源に出会い、それを活用して音楽づくりをすることを中核とする。デジタル音源は様々な加工がしてあり、簡単な操作で複雑な音の響きをつくることができる。デジタル音源に出会うことで生まれる子どもの想像性と、それを活用して音楽をつくる創造性を育むことができると考える。なお本研究ではその2つを合わせて「そうぞう性」と呼ぶ。 3 期待される成果 ・自ら音楽をつくる楽しさを味わう子どもの育成 ・自他の音楽を認め合い、自他の考えるよさを分かち合う心情の育成
成果の概要	1 児童の姿から シンセサイザーのデフォルト音源（デジタル音源）で音色を変化させて遊んだり、リズムパターンを変えて遊んだりする姿が見られた。次第に、自分の意図した音楽になるように組み合わせ始める姿が見られるようになった。これは、デジタル音源の音色が多様であり、その音色の響き、例えばシタールが生み出す東洋的な響きが、子どもの「想像力」を引き出し、子どもが音楽を「創造」する姿につながったものと考えられる。デジタル楽器活用力の向上も見られ、経験を通して、今後さらに多くの音楽を創作する子どもの姿が予想される。また、シンコペーション、ゼクエントなどの音楽表現技法を習得・活用している様子が見られた。 音楽をつくることを楽しんだり、お互いに作った曲を聴きあうことで自他のよさを認め合ったりする姿はもちろん、友だち同士で作った楽曲を聴きあったり、それについてアドバイスしあったりする姿も多く見られた。 2 アンケート結果から ・音楽をつくることに興味はありますか （事前）84%（事後）96% ・音楽づくりは楽しいですか （事前）76%（事後）96% <自由記述（事後のみ実施）から> ・リズム付きの音（源）は、ノリノリになるから楽しい。 ・作った曲でダンスできたのがうれしかった。 ・シンセを使うと無限に曲ができる気がする。
研究成果の発表状況	2月の日本音楽教育学会北陸地区例会にて、取組の一部を紹介。 次年度（29年度）の共創型対話教育研究所機関紙（論文集）に応募予定。